

Formula Blue

YAMAHA SL KARTING

全日本カート選手権 FS125 部門東地域第 5 戦 SUGO 大会

■開催日：9月8～9日

■天候：雨 ■参加台数：28台

路面コンディションに苦しむも最後までベストを尽くす 最終戦での巻き返しを誓う!!

全日本カート選手権 FS125 部門東地域第 5 戦 SUGO 大会が、9月8日～9日の2日間、宮城県・スポーツランド SUGO 西コースで開催された。もてぎで開幕した東地域シリーズも、今大会が最終戦となり、残すは鈴鹿サーキットでの東西統一戦のみとなる。今季の全日本選手権を良い形で締めくくるためにも、今大会では上位フィニッシュを果たし、最終戦へ勢いをつけたいところである。会場となるスポーツランド SUGO 西コースは、今年の SL カートミーティング全国大会会場ともなっている名門コースで、中高速域中心のテクニカルレイアウトとなっている。

レースウィークは、土曜日午前中は弱い雨が降っていたものの、午後の公式スケジュールが始まる頃には雨も止んだ。しかし、日曜日には朝から雨が降り続け、前回の最上川大会に続いてウェットコンディションでのレースとなった。また、気温も 20 度まで上がらず、肌寒い中でのレースとなった。

Time Trial/Qualifying Heat

今大会もエントリー台数が 28 台と多く、2 グループに分かれたタイムトライアルは、土曜日午後に行われ、路面はドライコンディションでのタイムアタックとなった。A 組で出走した山中はグループ最多となる 10 周を周回し、7 位、総合では 13 位となる。B 組出走の木下は同じく 10 周を周回し、4 位、総合では 9 位のタイムを記録する。

日曜日は朝から雨が降り続き、路面はウェットコンディション

となる。予選時は、やや路面の水量も多い状況でのレースとなった。木下、山中ともに路面コンディションとタイヤのマッチング、タイヤを活かすシャシーのセッティングが出せず苦戦を強いられる。その中でベストを尽くし周回を重ねるが、結局山中はほぼスタートポジションをキープした 14 位、木下はタイヤに十分なグリップが得られず大きくポジションを落とし 17 位でチェッカーを迎えることとなった。

Final Heat

午後に入っても尚、弱い雨は降り続ける。路面の水量は減ったものの、FS125 クラスの決勝ヒートが行われる段階では、依然としてウェットコンディションのままだった。

中団グリッドからのスタートとなった両ドライバーは、滑りやすい路面で慎重にスタートを切るが、木下はアクシデントに巻き込まれ、大きく順位を落としてしまう。しかし、そこから巻き返しを図り、周回を重ねるごとに順位を挽回していく。一方の山中は、この決勝でも路面とマシンとのマッチング、セッティングが合わせきれず苦戦を強いられる。タイヤをグリップさせることができないため、ペースを上げることができないもののスタートポジションを死守するように必死の走行を見せる。

レースが進むにつれ、路面からの水煙も少なくなり、路面コン



ディションは回復へ向かっていくが、両選手ともになかなか上位進出のきっかけを掴めず山中が 14 位、一時はアクシデントによりほぼ最後尾まで順位を落としていた木下は、懸命の挽回で 17 位まで戻りチェッカーとなった。

最高気温が 20 度を割り込み、予想外の低温とそれに伴う路面温度の低さなど、コンディションに大きく左右された今大会だった。両ドライバー、チームは結果を受け止め、今回のレースでの反省を活かし、2 ヶ月後の東西統一戦鈴鹿大会での巻き返しを期すこととなった。

最終戦では、西地域の「Formula Blue」スカラシップドライバーらと競い合い、東西の 4 名で上位独占を狙う。

30 Formula Blue チーム KBF



木下 藍斗 (チーム KBF/ 神奈川県出身 /17 歳)

レース前はドライもウェットも良い感触でした。TT ではリアのセッティングが合っていなかったのかペースを上げることができず9位に終わりました。日曜日は雨となり公式練習はユーズドタイヤでそれなりのタイムが出ていたのですが、予選で新品タイヤにしてからはタイヤとセッティングがマッチせずペースを上げることができませんでした。決勝へはセットを大きく変えましたが、それほど改善されず、序盤に追突されスピンを喫し最後尾から挽回しました。周囲のペースが落ちる中、それほどタイムダウンすることなく走れたので、そこはドライビングで対処でき良かったと思います。鈴鹿はウェットもドライもタイヤやマシンのセットはわかっているので、勝ちにいきます。

チーム代表：柳沢 和広【コジマブレンファクトリー】



グリップが足りないときの対処の方法など、助言したことを試して改善はされたのですが、ドライバーの工夫や試行錯誤が少し不足していたのかなと思います。コースに出たら気持ちだと思っているので、諦める、心が折れるのではなく条件が悪いレースでも一歩でも前に行く姿勢をもっと出してほしい。もちろん、そうして取り組んでいたと思いますが、色々質問してくるといった積極性がまだ出てきていないと感じています。色々な人に支えられて、このカラーリングで活動しており、恩返しは結果しかないので、最後は西の Formula Blue 勢とトップで競い合うくらいのレースをしてほしいです。

50 Formula Blue BEMAX



山中 秀馬 (BEMAX/ 茨城県出身 /16 歳)

ドライもウェットもセッティングなどを纏めきれなかったのだと思います。予選で色々試して、セッティングも変更していたのですが、最後までコンディションとかみ合わずに終わってしまいました。次戦の鈴鹿は、練習から態勢を整えて優勝を狙っていききたいと思います。

チーム代表：小野尾 司【BEMAX RACING】



TT は一人でアタックして伸ばしきれずに終わりましたが、ドライの方が調子は良かったと思います。前回の最上川同様に今回も雨が課題で、このクラスで戦える車を作れなかった自分たちの力不足もあると思いますし、その点は改善していきたいと思っています。鈴鹿まで2か月あるので、西の二人に続けるように、Formula Blue で1-2-3-4 フィニッシュを目指して、しっかりと追い込んで準備していきたいと思っています。

全日本カート選手権東地域第5戦 RESULTS

Pos.	No.	Driver	Team	T.T.	Q.H.
1	93	大草 りく	LCT by NUTEC	40.281 (12)	(2)
2	12	高口 大将	Drago Corse	40.134 (3)	(1)
3	45	山口 祐京	ミツサダ PWG RACING	40.417 (14)	(8)
14	50	山中 秀馬	Formula Blue BEMAX	40.310 (13)	(14)
17	30	木下 藍斗	Formula Blue チーム KBF	40.243 (9)	(17)

全日本カート選手権東地域ポイントランキング

Pos.	Driver	Team	Points
1	高口 大将	Drago Corse	141
2	大木 一輝	KP-BUZZ	126
3	大草 りく	LCT by NUTEC	105
10	木下 藍斗	Formula Blue チーム KBF	47
11	山中 秀馬	Formula Blue BEMAX	44

※ポイントランキングは暫定です。正式なランキングはJAFより発表されます。

EVENT CALENDAR

	East	Rd.1 22/Apr. MOTEGI	Rd.2 3/Jun. HONJO	Rd.3 1/Jul MOBARA	Rd.4 5/Aug. MOGAMIGAWA	Rd.5 9/Sep. SUGO	FINAL 18/Nov. SUZUKA
West		1/Apr. BIWAKO	20/May NAKAYAMA	17/Jun. APG	15/Jul. MIZUNAMI	26/Aug. KOHBE	